

震災対応と情報開示

3月11日、地震発生約1時間後に当社社長信元久隆を本部長に防災センターの機能を有する日本橋本店に「緊急災害対策本部」を設置し、社員と家族、親族の安否を最優先に、建屋・設備、お取引先の被害状況など情報収集を行いました。

3月13日17時時点で「東北地方太平洋沖地震に伴う弊社グループ被災状況」として、各生産拠点での被災状況および今後の生産予定について、第一報を当社ホームページ等で開示しました。建屋、設備の損傷の少ない山形製造(株)、岩槻製造(株)は3月14日から、館林製造所は3月15日から生産再開することをお知らせし、部材サプライヤーの被災状況等にも確認作業を行っていることを公表しました。

3月14日17時時点の「東北地方太平洋沖地震の影響に関するお知らせ(追加)」で、人的被害がないことを開示しました。

部材サプライヤーの被害状況については3月16日にほぼ確認が完了し、供給に懸念がある部材が一部あったことを把握しました。当該サプライヤーの復旧支援と並行して、代替品の検討を行うことを3月16日付のニュースリリースにて報告しました。また、5月9日には東日本大震災に伴う特別損失の計上に関するお知らせを開示しました。

なお、プルービング・グラウンドは全面復旧に2013年までかかる見通しです。

福島製造(株)の再稼働と被災地社員の生活支援

生産拠点で最も震源地の近くに位置する福島製造(株)では、電力供給が再開された13日午後より日本橋本店との連携のもと被災状況の精査を行いました。建物の倒壊はなかったものの、構内は仕掛かり品や在庫が散乱し、また製造装置の横滑りや耐震補強用「筋交い」の亀裂が発生していました。3月14日から福島製造(株)は山形製造(株)、本社支援部隊からのサポートを受けて構内補修、設備試運転等の修復作業を進めた結果、3月21日に国内すべての工場が通常生産に復帰しました。3月

22日には当社社長信元久隆が社員激励のため、福島製造(株)を訪問しました。



激励のメッセージを記す当社社長(福島製造(株) 2011年3月22日)

被災地の生活支援では、3月12日から支援物資の発送を開始しました。レトルト食品やカップラーメンなどの食料品、おむつ、粉ミルクなどのベビー用品、トイレトパーや水なしシャンプーなどの日用品、飲料水、軍手、マスク、毛布、肌着などの支援物資を福島、仙台に送りました。これらの支援物資は拠点を通して一部地域の避難所にも配布されました。

避難指定区域に居住する社員とその家族、家屋倒壊などの被災社員とその家族を対象に、関東地方への避難支援を行いました。3月13日から4月30日まで、埼玉県さいたま市の社員寮を始め、埼玉県、群馬県のビジネスホテルの滞在費用を会社で負担し、合計18家族、85名の方々を支援しました。

環境関連設備の被害としては福島製造(株)で、浄化槽が損傷し、社員食堂の休止などを余儀なくされましたが、4月14日には暫定復旧しました。8月連休には耐震性の高い浄化槽への取り替え工事を予定しています。

今回の震災対応に基づき、今後はBCPマニュアルの検証を行います。支援物資、情報通信設備、初動対応での支援メンバーなどの見直しや、季節を考慮した避難場所の選定などのため、ボトルネックの解消に向けたマニュアルの改訂を行う予定です。

TOPICS

復興支援

被災者の支援および被災地の復興支援

akebonoグループでは、東日本大震災による被災者の支援および被災地の復興に役立てていただくため、義援金および物資などの費用として合計約1億円の支援を行いました。

ボランティア活動

山形製造(株)では、東日本大震災のボランティア支援本部となっている寒河江市市民体育館にて、3月30日に山形製造(株)新入社員7名がボランティア活動に参加し、支援物資の仕分けや運搬などを手伝えました。



物資の運搬作業ボランティア

震災後に社員へのアンケートを実施

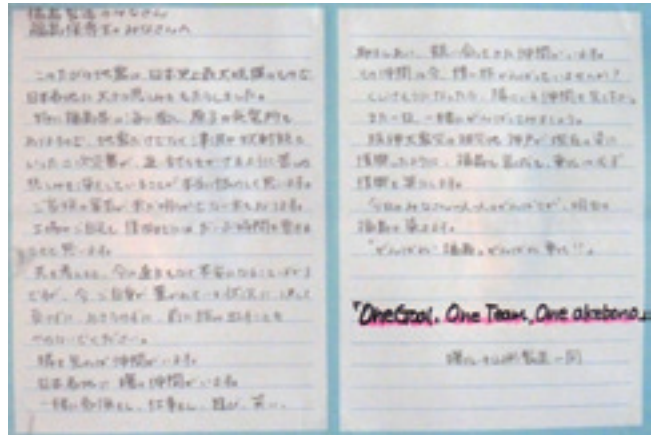
コーポレートブランド推進室では、4月13日から5月23日にかけて、ブランド推進メンバーおよび各部門社員の協力のもと、「震災を通して感じたこと、気づいたこと」の意見をアンケート収集しました。5月27日時点で239件の回答が寄せられ、震災時の対応について、「社員同士のつながり、一体感（団結力、連帯感）」「会社が社員を大切に思う気持ち」「地域の方々、お客様、お取引先様からの感謝の気持ち」に関する意見が多く出されました。



支援物資を運ぶトラック
(日本橋本店 2011年3月12日)



飲料水の支援
(Ai-City 2011年3月14日)



山形製造(株)から福島製造(株)に寄せられた応援の手紙(2011年3月17日)

■社員同士のつながり、一体感（団結力、連帯感）

- ・海外拠点からのメールのほとんどに日本の状況やakebonoの状況を心配する言葉が入っていた。自ら情報を入手しない限り分からないような環境でも日本やakebonoのことを気にしてくれていて、akebonoは日本だけでなくグローバルな会社なんだと感じた。
- ・交通機関ストップにより帰宅困難だった同僚を、車で家まで送り届け、感謝された。
- ・被災した地域に向け、食料・水を直ちに運ぶなど、拠点間を越えた応援を行っていたり、全社で義援金を募る等、akebono全体で支えていこうという意気込みを強く感じた。
- ・震災後電力不足が問題となった。まだ寒さも残っている最中、エアコンや照明の使用を控え節電に積極的に協力している。不便も感じていると思うが、あたかも当たり前のごとくのように皆さんが取り組んでいる姿を見て感心した。

■会社が社員を大切に思う気持ち

- ・ガスが止まっている中、akebono本社で「電気風呂沸かし器」を用意し、仙台営業所社員に配布していただいた。仙台営業所社員の自宅近所に赤ん坊がいてお風呂で困っていると聞きそれを貸した。
- ・原発災害でいwijkより避難する際に家族を含めた宿泊手配をしてくれて、混乱する中で路頭に迷うことなく避難できた。つながりを強く感じた。
- ・東北出身者として、家族や親戚の安否、家屋の被害状況、原発からの距離を聞かれ、「もしもの時は家族を呼ぶことも可能だから、その時は遠慮するなよ」と言われて安心した。

■地域の方々、お客様、お取引先様からの感謝の気持ち

- ・市内の避難所でボランティア活動に協力しました。多くの避難者の方に感謝され、中には感激して涙を流す人もいて、思わずもらい泣きをしそうになりました。ボランティア活動に参加して良かったと感じました。
- ・当初は情報収集のみを考えていたが、訪問先の被災状況を鑑み、水やお茶、食料を持参することになった。その際も福島製造(株)より快く支援物資を分けていただき、お取引先様訪問をする事ができ、先方からも非常に感謝された。

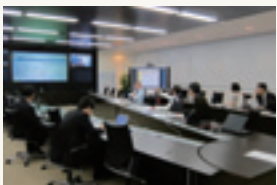
■その他

- ・物資がすぐ届いたことが嬉しかった。特に私の場合、娘の粉ミルクが特殊だったので、本当にお世話になった。病院も薬局もいつ届くか分からないという回答で、大変不安になりあきらめかけていた。本社の皆さんが探し出して送ってくれたときは本当に嬉しく、感謝しています。皆さんが一体になって動いてくれたおかげです。
- ・震災1週間後に福島製造(株)を訪問、道路はガタガタ、工場建屋もかすがいがずれたり階段が浮いていたりで震災の影響が大きかったことが見て取れた。しかし、工場内に入るとみんな明るかった。保専生からは明るく「ありがとうございます」とあいさつが返ってくる。震災の影響は大きかったかもしれないが、みんな前向きに取り組んでいるんだなって感じた。
- ・おにぎり握り隊 毎朝7時から社員のために350個のおにぎりを作ってくれた保専生(当日遅番)の早朝からの手伝いに感謝したい。

● TOPICS

地震シミュレーションと避難訓練、耐震補強の実施

akebonoでは、危機管理プロジェクトの一環として、定期的に地震シミュレーションを実施し、そこで得られた課題をフィードバックしています。4回目となる訓練は2010年12月15日に行いました。福島で震度6強の地震が発生し、設備インフラで甚大な被害が発生したため生産継続が不可能、また被災者も出ているという想定のもと、福島製造(株)、Ai-City、日本橋本店に災害対策本部を設置の上、衛星電話から電話会議システム、テレビ会議システムに接続し、各拠点の被災状況報告、安否確認を行いました。地



シミュレーションでの対策本部(日本橋本店)

震シミュレーションでは、対策本部長が出張中という想定で対策本部長代理を取締役専務執行役員が担当し、各拠点に指示を出しました。

同日、Ai-Cityでも避難訓練が実施されました。関東地方に大きな地震が発生したという想定で、全社員739名が社内放送に従い避難ルートの確認を行いながら、避難所に移動しました。

また、akebonoでは2008年より各拠点に対し耐震補強を進めています。福島製造(株)は2011年3月10日に敷地内の寮を含む建屋の耐震補強工事を完了しました。



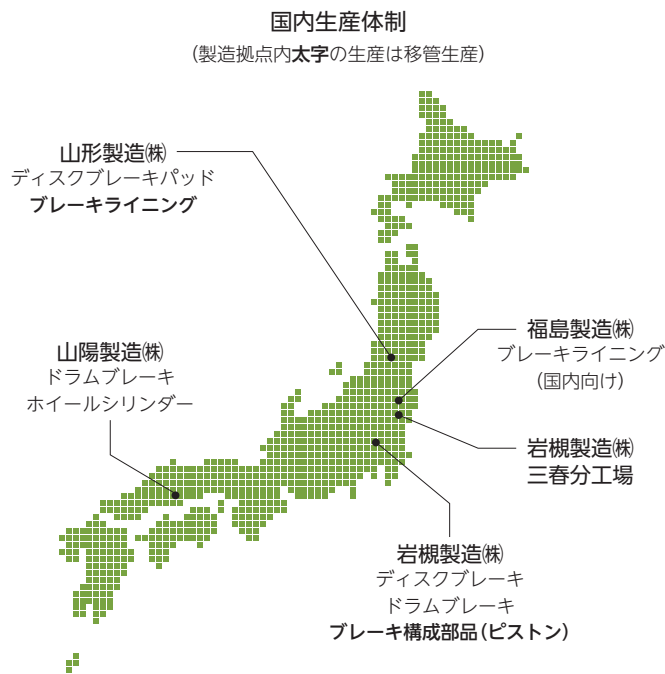
Ai-Cityで避難訓練を実施

震災後のakebonoの対応

国内生産体制の再構築

akebonoでは震災の影響に対応して福島県内で製造しているブレーキ部品の一部を他の地域に移管し、生産体制の分散化を進めます。従来、ドラムブレーキのライニングは福島製造(株)で生産していましたが、この一部を山形製造(株)に移管し、国内では、福島とともに2拠点体制とします。移管するライニングの生産規模は総生産量の1割となります。福島製造(株)では輸出用のブレーキ部品も少量ながら生産していましたが、今後北米向け製品は北米拠点へ、アジア向け製品はインドネシアまたはタイなどの生産拠点への移管を検討しています。輸出用製品については海外生産拠点での生産比率を高め分散化を図るとともに、これを契機に海外生産拠点における標準化と共通化を進めてコスト競争力を強化します。福島第一原子力発電所の事故による避難範囲の拡大への対応に備えて、三春分工場で生産されていたピストンは、岩槻製造(株)へ8月末をめどに移管します。

日本の自動車産業は上流が集約される構造になっており、今回の震災では一部の素材メーカーが被害を受けたことで、自動車産業全体の生産に影響が及んでいます。さらに原材料高も進んでおり、akebonoでは今後のコスト構造が大きく変化すると予測しています。このため国内生産体制においても標準化と共通化をさらに進めることで、コスト競争力を高めます。



TOPICS

海外拠点からのメッセージ

■北米

日本で発生した地震や津波により引き起こされた荒れ果てた映像を見るたびに、私たちの心はakebonoの仲間やその家族がどうしているのかを想い、そしてまた日本人の持つ勤勉さ、忍耐に感動させられています。

akebonoの皆様およびご家族に対し、心からお見舞いを申し上げますとともに、私たちもakebonoが直面している苦難克服を支援し、akebonoのチームとして、一緒にこの危機を乗り越えていきたいと思いをします。

■中国

3月11日に発生した巨大地震の情報が次々に中国にも入ってきました。私たちも過去に四川大地震を経験しましたが、地震だけでなく津波、原発問題といった想像を超えた大きな被害と悲しみがあることを察し、隣国の中国より心よりお見舞いの気持ちを伝えたいと思いをします。また、日本の皆さんの秩序ある行動も伝わってきており、大変敬服しています。

皆様のご努力で、この苦難を乗り越え復興されることを心よりお祈り申し上げます。

■タイ

このたびの壊滅的な地震および津波において、我々社員一同、被災された方々にお見舞い申し上げます。また、一刻も早い復旧を祈るとともに、Akebono Brake (Thailand) Co., Ltd. 社員一同、One akebonoの一員としてできる限りの協力をしていきたいと思いをします。

■欧州

日本で発生した地震と津波の悲惨な映像を見まして、社員一同心を痛めております。日本で働く社員の皆様に対して、心からお見舞いを申し上げますと同時に、この苦境をともに乗り越えていきたいと思いをします。

■インドネシア

この度の地震、津波災害の報に接し、P.T. Akebono Brake Astra Indonesia社員一同、深く心を痛めております。7年前、インドネシアも大地震、大津波により大きな被害を受け、日本をはじめ諸外国からたくさんの支援を得ました。同じ体験をしたものとして、また同じakebonoグループの一員として、復興に向けた努力を分かち合いたいと思いをします。

*海外拠点の正式名称はp.67に掲載しています。



保專生の卒業式

3月11日の東日本大震災の影響を受けて、取りやめとなっていた保專生38期生（脚注）の卒業式とお別れ会を4月10日、日本橋本店で開催しました。3月22日に当社社長信元久隆が、被災拠点の支援と激励のため福島製造(株)を訪れた際、工場の復旧に尽力した卒業生から「袴を着たかった」という一言を受け、式典の開催を即決しました。

卒業式には18名の卒業生のうち参加可能な11名が出席しました。ご家族や寮関係者が見守るなか、卒業生全員は華やかな袴姿で出席しました。卒業式では信元より卒業証書が授与され、祝辞が贈られました。「保專生制度は先代社長がどうにかして女性の学業の手助けをしたいとスタートさせた制度です。そして、ちょうど40年前の4月10日、この日に福島製造(株)は創業しました。このような貴重な日に卒業式を開催させていただけるのは、私にとっても非常にうれしいことです。皆さんはこれから

曙ブレーキも卒業されますが、『皆のakebonoを創っていこう!』というところを、ぜひ、『One Japan、皆の日本をもう1度創り直していこう、新しく作り上げていこう』といった気持ちで心の中に留めておいていただければ、非常にうれしく思います」

卒業生の代表として、短大をトップの成績で卒業した鈴木成子さんから「私は晴れて幼稚園教諭になることができました。曙ブレーキで学んだ、助け合おうとする気持ち、やさしさを、未来を背負うたくさん子どもたちに伝えていきたいです。本当に感謝しています」とお礼の言葉が贈られました。



卒業証書の授与



卒業生代表による答辞



寮監さんと寮母さんも出席



卒業生の皆さんで記念写真

■出席されたご家族の皆さん



亀川莉沙さんとご家族

ご家族代表のメッセージ

周りの方々の親切で熱心なご指導のおかげで、子どもたちも立派に成長することができました。関わっていただいた皆様に深く感謝いたします。



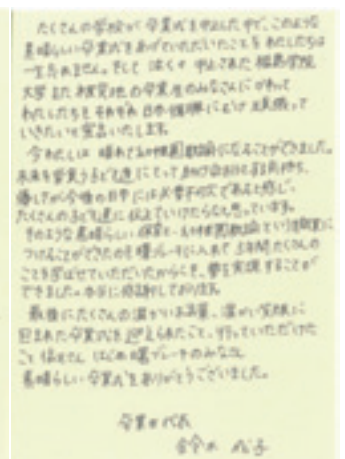
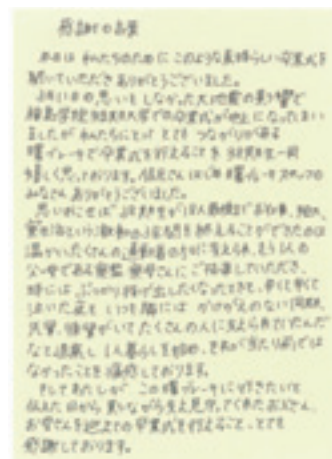
鈴木成子さんとご家族



馬越万貴さんとご家族

【保專生制度とは】

akebonoでは1971年から就職進学（保專生）制度を実施しています。保專生制度は、akebonoで働きながら、女子短期大学の保育課第二部（夜間課程）に通い、3年間で幼稚園教諭二種免許状と保育士資格が取得できる制度です。学費を給与からまかなえるので、自分の力で学校を卒業し、資格取得することができます。保專生制度は3年間の期間限定で、全員が寮での共同生活を送り、学業と両立させながら交代勤務に従事します。資格取得後の卒業生はakebono以外の企業や幼稚園、保育所に就職します。現在は福島製造(株)で運用しており、2011年で運用開始から40年を迎えました。毎年20名程度の希望者を迎え入れ、制度利用者は延べ1,500名を超えています。



卒業生代表からの感謝の言葉